２　研究の実際　＞　（２）　活動プログラムの実際

カ　検証結果＜中学校(学年)＞

【検証の視点Ⅰ－Ａ：関心】

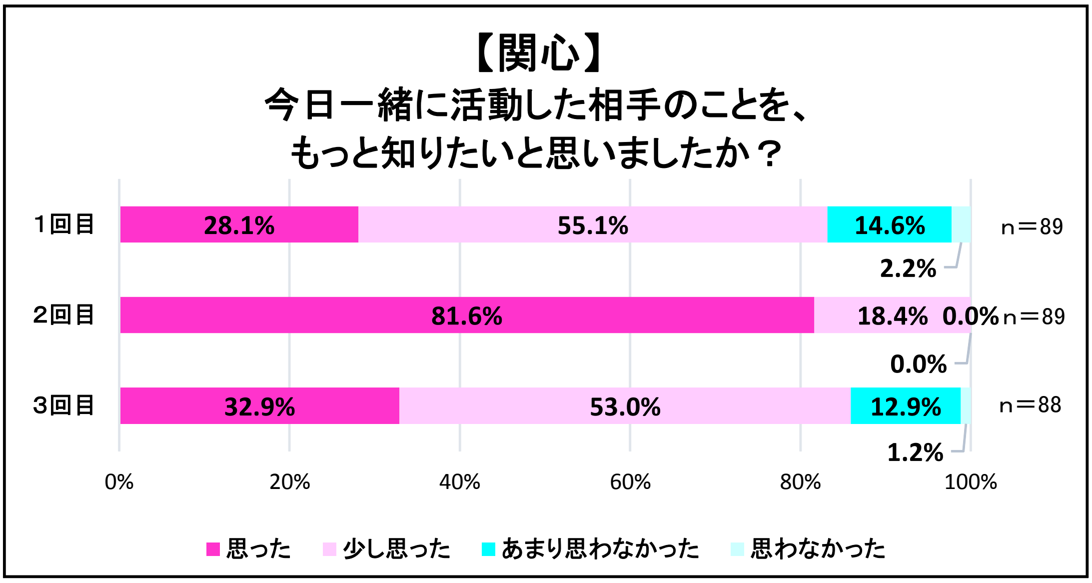

図１　生徒の友達に対する関心の変化

○「思った」「少し思った」と回答した生徒の割合は、１回目が83.2%、２回目が100%、３回目が85.9%でした。その理由として、「これまで知らなかった友達の新しい一面を知ることができ、思った以上に楽しく活動できたから」という記述が多く見られました。一方、「あまり思わなかった」「思わなかった」と回答した生徒の割合は、１回目が16.8%、２回目が18.4%、３回目が14.1%でしたが、その理由として、「前からよく知っている相手だったから」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの生徒はグループでの活動を通して、学級の友達に対する関心を高めることができたと考えられます。

【検証の視点Ⅰ－Ｂ：親近感】

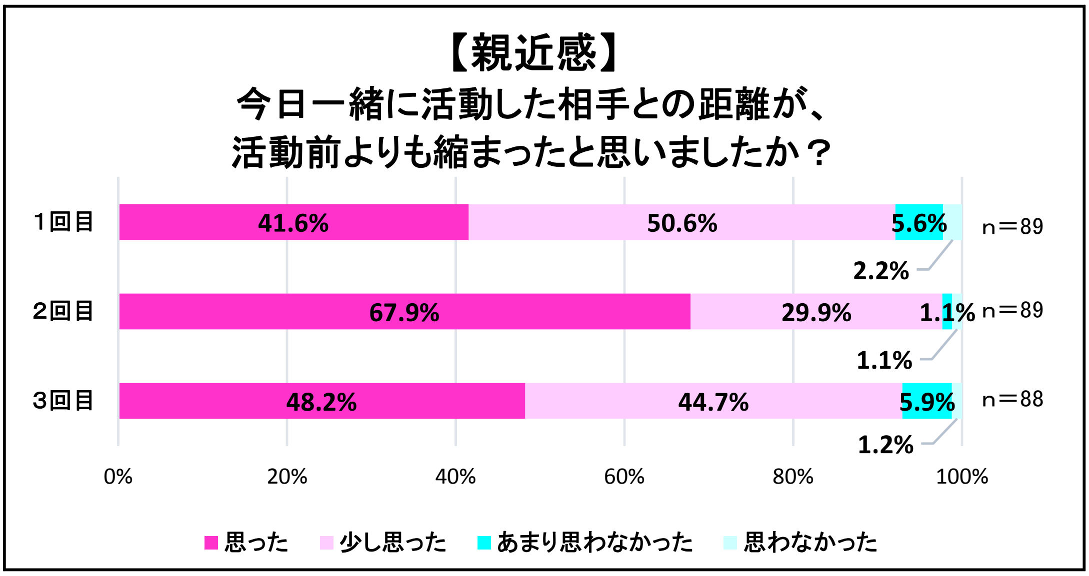

図２　生徒の友達に対する親近感の変化

○「思った」「少し思った」と回答した生徒の割合は、１回目が92.2%、２回目が97.8%、３回目が92.9%でした。その理由として、「あまり話したことのない相手だったけど、話してみたら面白かったから」「相手のことを考えて話したら、笑顔で楽しく話せたから」という記述が多く見られました。一方、「あまり思わなかった」「思わなかった」と回答した生徒の割合は、１回目が7.8%、２回目が2.2%、３回目が7.1%でしたが、その理由として、「いつもよく話をする相手だったから」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの生徒はグループでの活動を通して、学級の友達に対する関心を高めることができたと考えられます。

【検証の視点Ｉ－Ｃ：仲間意識】

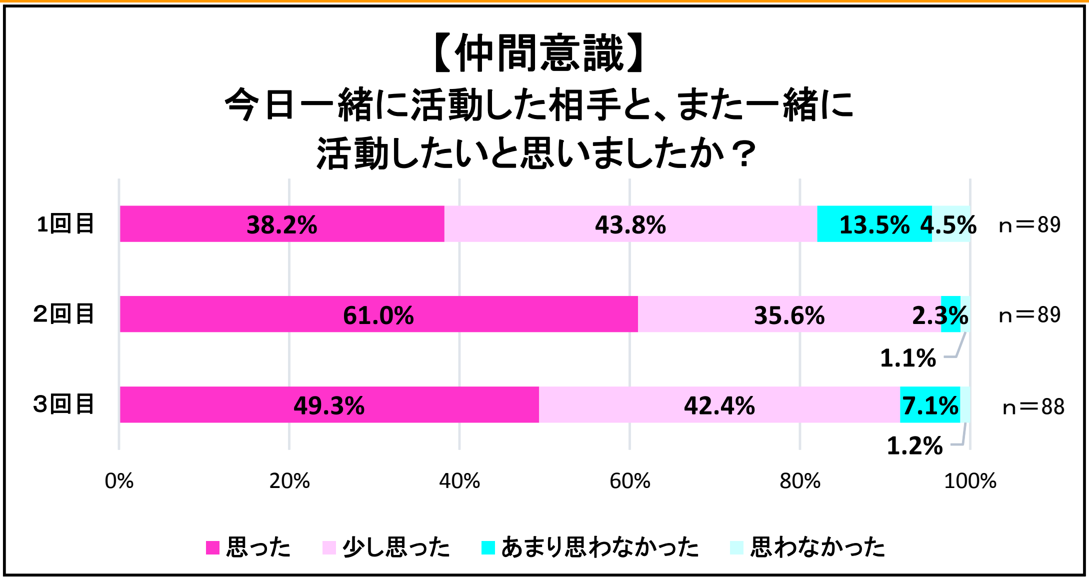

図３　生徒の友達に対する仲間意識の変化

○「思った」「少し思った」と回答した生徒の割合は、１回目が82.0%、２回目が96.6%、３回目が91.7%でした。その理由として、「たくさん話ができて互いのことが分かったから」「しっかりと話し合って、今まで知らなかったことを知ることができたから」という記述が多く見られました。一方、「あまり思わなかった」「思わなかった」と回答した生徒の割合は、１回目が18.0%、２回目が3.4%、３回目が8.3%でしたが、その理由として、「他の人とも活動してみたいから」「他の学級の友達ともやってみたいから」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの生徒はグループでの活動を通して、学級の友達に対する仲間意識を高めることができたと考えられます。

【検証の視点Ⅱ－Ａ：学級の雰囲気】

オ　検証内容と検証方法　について
↑こちらをクリックすると、検証の視点を見ることができます。

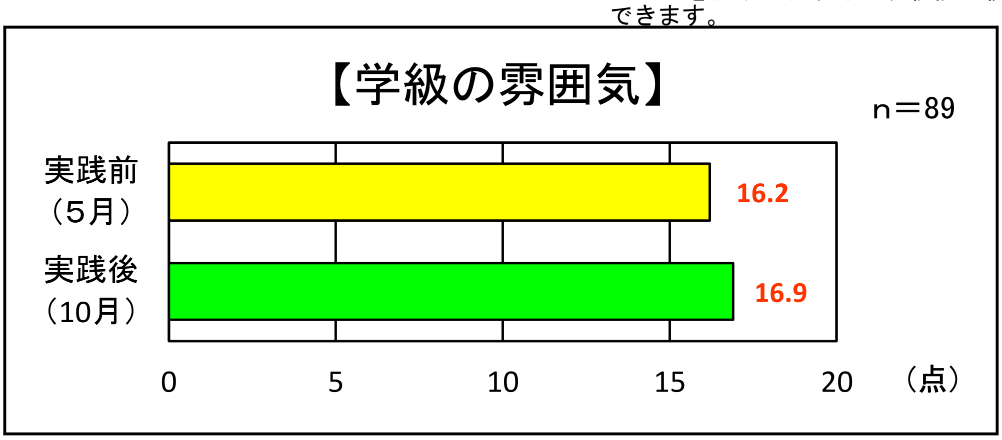

図４　生徒の学級の雰囲気に対する意識と行動の変化

○活動プログラムにおける授業実践の前後で、数値が0.7ポイント上がりました。また、生徒のワークシート等には、学級の雰囲気について「互いに相手のことを考えて行動すれば笑顔が増えて楽しく生活できると思った」「自分の考えや意見を言うだけではなく、相手のことも聴けばトラブルは起きにくいということが分かった」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は、グループでの活動を通して、今後、学級の雰囲気が良くなっていくと感じていると考えることができます。

【検証の視点Ⅱ－Ｂ：友達との関係】　　　　　**オ　検証内容と検証方法　について**

↑こちらをクリックすると、検証の視点を見ることができます。

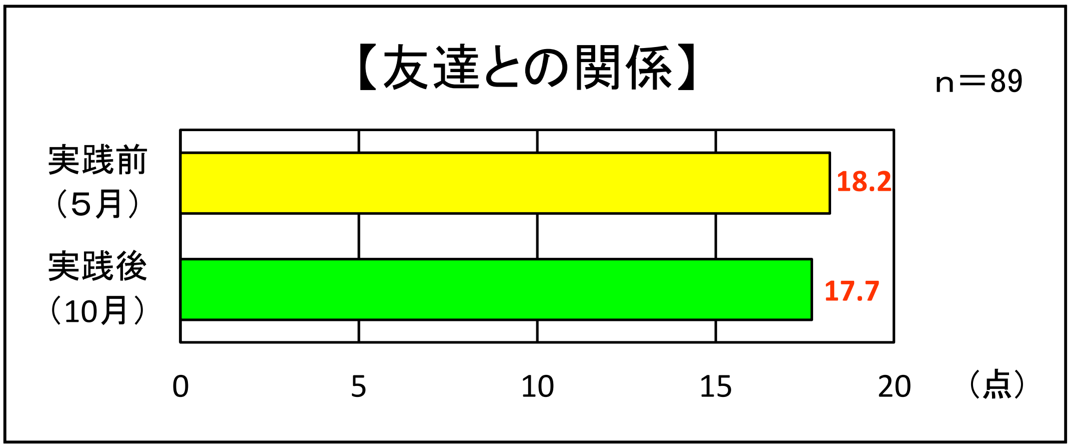

図５　生徒の友達との関係に対する意識と行動の変化（全体）

○活動プログラムにおける授業実践の前後で、数値が0.5ポイント下がりました（図５）。友達との関係における５つの質問項目を見ると、４つの項目で数値が下がっていました。一方、生徒のワークシート等には、「もめている２人の間に入るのは難しいけれど、学習したトラブル解決のポイントを使って解決したい」「トラブルを起こさないように話し方や聴き方を工夫しなければいけない」という記述が多く見られました。このことから、数値が下がった理由として、生徒がグループでの活動を通して、友達への配慮や言葉の掛け方についての意識を高めたことにより、友達との関係を厳しく評価したと考えられます。

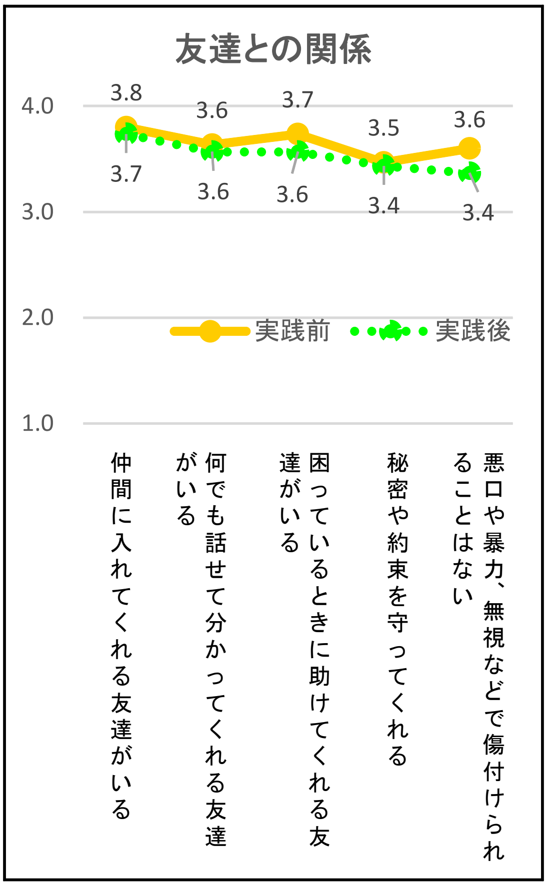

図６　生徒の友達との関係に対する意識と行動の変化（項目別）